

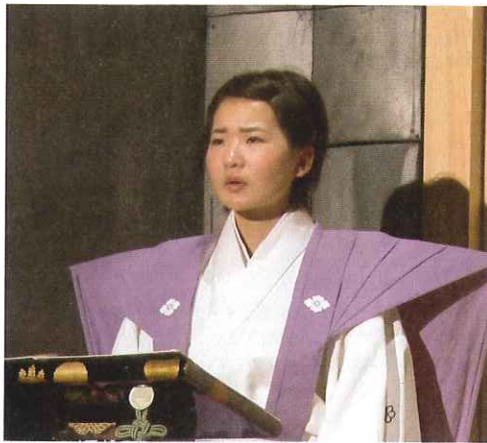
# 明日への扉

Door to Tomorrow

人の心に迫り、その声を語る。

## 淡路人形浄瑠璃 太夫

竹本友里希氏



Tomoriki Takemoto

1995年兵庫県生まれ。本名は村上あかり。高校2年生の時、太夫を生業とする「竹本」姓を名乗ることが許され、師匠・鶴澤友路氏からもらった「友」の一字に「ふる里」に「希望」という思いを込めて「友里希」という芸名を授かった。

淡路人形浄瑠璃  
(あわじにんぎょうじょうり)

室町時代後期、人形遣いの元祖、百太夫が淡路島に移り住んだことに始まる。江戸時代には娯楽として歌舞伎と人気を二分した。日本各地に伝わる人形芝居の発祥とされ、文楽もその一つといわれる。



五百年の歴史を誇る国の重要無形民俗文化財、淡路人形浄瑠璃。人形遣いと三味線弾き、語り手の太夫とが一体となり、さまざまな物語を繰り広げる淡路島生まれの伝統芸能だ。

竹本友里希さんは、ふるさとの誇りを受け継ごうと修業に励む、若き太夫。中学2年生で人間国宝の鶴澤友路氏に弟子入り

し、高校卒業後に淡路島にただ一つ残る人形一座「淡路人形座」に加わった。

きっかけは？

竹本「中学の先輩が人形浄瑠璃部に入っていたのですが、その人が太夫として語り始めると全然違う人物に見えたんです。それだ

け人を変えることのできるものは一体何なのかと衝撃を受けたのがきっかけです」

舞台では、一人の太夫が複数の登場人物を声だけで演じ分け、時には「心の声」を織り交ぜながらその心情を巧みに表す。また、台詞の合間に物語の説明を行うのも、大切な仕事だ。太夫の語りに合わせて人形が動き、三味線が奏でられるため、その出来が舞台を決めるといっても過言ではない。

もつとも、人生経験を積んだ五十歳を超えてからでないと、登場人物の心に真に迫った語りは難しいとされる。まだ二十歳を過ぎたばかりの竹本さんは、今できる努力を積み重ねるしかない。稽古だけでなく、見たこと、聞いたこと、思ったことのを役づくりに生かそうと、毎日が修業だ。

自分にとって太夫とは？

竹本「人の感情を表す太夫の語りに、正解はないと考えています。また、自分が納得できる語りができたとしても、お客さんがいいと感じなければ意味がありません」

ふるさとの誇りを未来につなぐため、この道に生きる若者は今日も、努力を続ける。さらなる成長を目指して明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2015年8月取材。掲載内容は取材当時のものです。

映像ドキュメンタリー  
「明日への扉」を  
ぜひご覧ください。

WebやTVなどで  
お楽しみいただけます。

Web版

パソコンやタブレットでもご覧になれます。  
今回ご紹介した方を含め、他にも多数の若者たち  
をご紹介します。

アットホーム明日への扉

TV番組

ディスカバリーチャンネル (CS)  
冠番組「アットホーム presents 明日への扉」放映中  
毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン

ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中



最新号のご案内

好評公開中

No.087

花火師  
今野 祥氏  
(秋田県)

Discovery CHANNEL